

NO.	中長期目標 (重点目標)	短期目標 (重点課題)	指標 (具体的な方策)	評価	保護者 アンケート	評価	生徒 アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点
1	学力向上の推進に努める。	生徒が達成感・成就感が味わえるような授業の工夫・改善を行う。	生徒が集中して学習に取り組めるよう、学習用具の準備や授業態度を中心に学習規律を確立させる。	3.0	子どもは、学校で落ち着いて学習に取り組んでいると感じる。	2.8	授業中、話をしっかりと聞き、まじめに学習に取り組んでいる。	3.2	○学習用具忘れを減らし、授業態度を中心とした学習規律の確立を図るため、細かな明日の連絡及び授業のきまりを徹底した。	○学習用具忘れや授業態度の面で取組の効果は見られたが、今年度も一部の教科の授業で課題が残った。学習のルールや授業のきまりなど、生徒へ理解させたうえで、授業態度を中心に学習規律を確立する必要がある。
			「めあて」と「まとめ」を提示した授業を行う。	3.0					○毎時間、「めあて」と「まとめ」を提示した授業を行った。また、視聴覚教材や自作のプリントを取り入れ、授業がよりわかりやすく、取り組めるよう工夫・改善を行った。	○一部の教科では生徒の能力に応じた自作の教材を取り入れたことで、授業に意欲的に取り組む生徒が増えた。一方で、「まとめ」を提示した授業が少ないので、まとめ段階を意識した授業について工夫・改善していく。
			毎週3回、月曜・水曜・金曜に国語・数学・英語を中心に課題を出し、他教科も適切に宿題を出すことで家庭学習の定着を図る。「ワンプリデー」	3.0					○国語・数学・英語の3教科を中心に「ワンプリデー」として実施するとともに他教科も週末課題等を出した。また、休業中の宿題に過去問題や、WEB問題を活用した。	○どの学年も取組として定着してきたが、より学習意欲を喚起できるよう内容の工夫・改善に努める。また、全国学力調査やCRTの結果をふまえた取組、家庭学習への習慣につながるよう取り組んでいく。
			朝自習・総合的な学習の時間を利用して、漢字力の向上に取り組む。「漢字コンクール」	3.6					○1,2年生は毎学期、3年生は1,2学期に「漢字コンクール」を実施した。また、全学年とも年間3週間「漢字朝自習週間」を設けて、実施した。	○どの学年も取組として定着してきており、生徒も意欲的に取り組んでいる。今後も、基礎学力を保障するため、「漢字朝自習」「漢字コンクール」を継続して実施する。
2	心身の健康を目指した健康教育の推進に努める。	心の教育の充実を図る。	人権教育及び道德教育の充実を図るとともに、自立心・自己責任・善悪の判断など基本的なモラルの育成に努める。	3.0	子どもは、相手の気持ちを考えた言葉遣いや行動ができている。	3.0	相手の気持ちを考えた言葉遣いや態度ができている。	3.2	○全学年一斉に携帯・ネットでのマナーやトラブルにおける講師を招聘し、6月に講演会を実施した。	○情報モラルの育成のため、ネットトラブルの実情など、生徒の内面に訴えかける講話を実施できた。また、教師側のネットトラブルに関する研修も今年度は実施できた。次年度も生徒の実態を考慮した上で、内容を精選し、取り組んでいく。
			学校環境の整備を図る。	3.2					○毎時間、全職員による清掃の指導を行い、今年度は予定通りに美化コンクールが実施できた。	○今年度は予定通りに2学期に美化コンクールが全学年で実施できた。次年度も2学期に位置づけて、審査項目や実施内容を検討し、生徒の清掃美化の意識が高まるよう取り組んでいく。
			豊かな人間性を育む食育に取り組む。	3.1					○配膳・片付けや食事のマナーについて全職員で確認し、配膳室や学級で指導した。食に関する内容の放送についても毎回行うことができた。	○配膳室や学級で指導や食に関する内容の放送については、毎回きちんと行うことができた。今後は、片付けや配膳室への返却マナーがさらに向上できるよう継続して指導していく。
			健康保持・増進と食習慣の定着を視点に、家庭訪問や定期考査、学期末の懇談会中での給食を実施する。	3.7					○家庭訪問や定期考査、学期末の懇談会中においても、給食を実施できた。	○定期考査や学期末の懇談会中においても、中止することなく給食を完全実施できた。栄養代理職員の給食訪問指導を受けるなかで今後も学級担任を中心に指導にあたっていく。

		総合的な学習の時間における体験活動を充実する。	1年生のふれあい合宿、2年生の農泊体験学習、3年生の修学旅行等の体験的な学習を充実する。	3.6					○3年生の修学旅行は5月に、1年生のふれあい合宿は6月に、2年生の農泊体験学習は10月に実施した。	○どの学年の体験的な学習も、充実した取組となり、生徒の満足度も高かった。しかしながら、行事を実施する際には教育的効果を考え、総合的な学習の時間と各教科との関連を図りながら実施する必要がある。
3	心の交流を基盤とした生徒指導及び小中一貫・連携教育の推進と充実に努める。	生徒の心をつかんだ生徒指導の推進と危機管理意識の徹底を図る。	教育相談やいじめアンケート等から、いじめ等の問題に対する早期発見・早期対応に努める。	3.2	子どもは、毎日楽しく安心して学校に通っている。	3.2	毎日楽しく安心して学校に通っている。	3.4	○毎学期、いじめアンケートを各学級で実施するなかで、毎学期1回、全生徒を対象に教育相談を実施した。	○いじめ等各種アンケートにより、学級経営のための有効な資料が得られ、教育相談や日常生活指導に当たることができた。また、生徒理解を深める研修を行ったが、その後の検証のための機会を設定できなかった。
			問題行動に対し、すべての教師が一致して、カウンセリングマインドを活かした指導にあたる。	3.0					○学校全体及び各学年で発生した問題行動に対し、学校・学年の職員が協力して対応できた。	○問題行動に対して、全職員で対応したことが早期解決につながった。今後、組織的かつ計画的に対応するとともに家庭・地域との連携を図りながら、集団及び生徒個々の規律の向上を目指す必要がある。
		あいさつや言葉遣いを中心に基本的な生活習慣の定着を図る。	服装のきまりや時間を守る指導を継続して行う。また、あいさつや適切な言葉遣い、校歌を大きな声で歌うことができるようにする。	2.7	子どもは、礼儀正しくあいさつでき、身だしなみも整っている。	3.1	礼儀正しくあいさつができ身だしなみも整っている。	3.4	○学年集会や月1回のあいさつ運動、日ごろの声かけの中で、服装や頭髪の指導、あいさつの指導を行った。また、儀式的行事を中心に校歌指導を行った。	○日常生活においてもきちんとしたあいさつができる生徒が増え、社会性・人間性の確立にも効果が上がってきている。また、服装や頭髪の指導だけでなく礼儀や言葉遣い、一般的なマナーも含めた指導も必要である。
		小中一貫・連携教育及び特別支援教育を充実する。	小学校への出前授業や小中合同の職員研修を行うことで、中1ギャップの解消を図るとともに、生徒一人一人の個性や実態に応じた支援教育を行う。また、土曜日授業を活用して、小中合同の地域清掃を実施する。	2.8					○1学期に生徒理解に関する職員研修を行い特別支援学級担任を中心に全職員が個人の特性に応じた日常における生活指導や声かけ及び各教科等における学習指導を行った。	○生徒とさまざまな場面でふれあう中で、実態の早期把握に努め、特別支援教育コーディネーターをはじめ、養護教諭、スクールカウンセラー等と連携し、当該生徒への支援に係る適切な判断や必要な支援を行うことができる体制を整えていく。
		研修の充実と教職員体制の充実を図る。	教育センター研修への参加、実践に基づく校内研修や要請訪問による研修などを実施する。	2.9					○教育センター研修への参加、指導主事要請訪問による研修などを実施した。	○希望者による教育センター研修への参加、要請訪問による研修は実施できたが、授業実践に基づく校内研修までには至らなかった。次年度は、ベテラン教員の指導だけでなく、若手教員による学び合いを校内で推進し、専門性の向上を図る。
4	保護者及び地域と連携を図り、信頼される学校づくりに努める。	保護者及び地域に開かれたり、信頼される学校を推進する。	学年や学級通信、ほけんだよりの月1回発行、HP月1回の更新等充実を図るとともに保護者にきちんと渡すよう指導する。	3.0	学校からのプリントや通信などから、学校の様子が分かる。	2.8	学校からのプリントや通信などを家族にきちんと渡している。	3.1	○ほけんだより、HPの更新等については、月1回以上の発行・更新を実施した。	○今後も地域や家庭と連携を深めるためにも、充実した通信・HPを発信し、情報を伝えていく。また、家庭へ連絡や情報が確実に伝わる手立てを講じるとともに学校行事の様子を伝えるHPのコーナーの充実を図る。
			学校開放週間や土曜日授業の内容を充実を図るとともにPTA活動・地域活動へ積極的に参加する。また、小若山笠への職員及び生徒の積極的参加を図る。	3.0					○学校開放週間や土曜日授業にクラスマッチや百人一首大会、PTA主催の豚汁会を実施することで、多くの参加があった。地域の活動については、小若山笠での参加率が約30%という現状であった。	○土曜日授業にクラスマッチや百人一首大会PTA主催の豚汁会を実施したことで、学校の取組・実態を理解してもらいよい機会となった。今後も、行事前の説明会や授業参観等を活用し、より充実した開放を推進する。また、小若山笠についても、参加者が増えるよう呼びかける。